

Title	勉学もスポーツも趣味も、全力投球でぶつかってきた結果が今につながっている： 青木義満准教授に聞く
Sub Title	
Author	田井中, 麻都佳(Tainaka, Madoka)
Publisher	慶應義塾大学工学部
Publication year	2014
Jtitle	新版 窮理図解 No.15 (2014. 1) ,p.4- 5
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	インタビュー
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000015-0004">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000015-0004</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.



## 勉学もスポーツも趣味も、 全力投球でぶつかってきた結果が 今につながっている

町の電器屋さんの長男として、幼いころから電化製品やパソコンに慣れ親しんで育ったという青木さん。一方で、学生時代は柔道やラグビー、バンドなど、部活動でも大活躍。勉学にスポーツに趣味に全力で取り組み、研究でも多くの成果をあげてきた。学生からも絶大の人気を誇る青木さんは、どのようにして研究者になったのだろうか。その生き立ちと研究者人生について聞いた。

### —ご実家は群馬県高崎市の電器屋さんだったそうですね。

ええ、両親で店をやっていて、父は家でも電化製品のことがばり話すような人だったため、私も自然と電化製品に興味を持つようになりました。しかも父は新しいモノ好きで、地元密着の電器屋とは言うものの、かなり時代の先端を行く店だったのではないのでしょうか。

なかでも進んでいたのが、いち早くパソコンを扱い、2階のワンフロアをパソコンスペースとして開放していたこと。学校帰りに近所の小学生と一緒に、『ベーシックマガジン』を見ては、ゲームのプログラミングを打ち込んで遊んでいましたね。その頃から、自分は将来、理系に進むんだろうなあと漠然と感じていました。

一方で、スポーツも大好きで、小学生時代はサッカーと水泳を、中学に入ってから、バレーボール部に入学し、最終的には部長までやりました。

### —高校は早稲田の付属に進学されたんですね。

高校では付属校ということで大学受験がないため、部活三昧の生活を送っていました。先輩と応援部を立ち上げたり、柔道部で活動したり、軽音楽部ではドラムをたたいたり。文化祭で

は3つもバンドを掛け持ちしたうえ、後夜祭では応援部のステージに出て、大忙しでしたね。

そうは言っても、いちおう勉強もやっていましたよ。ちなみに高校の卒論のテーマは、「21世紀へ向けてのエネルギー：化石燃料代替エネルギーの必要性と太陽エネルギー」。当時は、21世紀初頭にはすでに石油は枯渇していると信じていましたからね（笑）。

### —すんなり理系に進学されたのですか？

いやそれが、高3のときに大学の政経学部に行くか理工学部に行くか、少し迷ったのです。最終的には、初志貫徹で理工学部へ。そして宇宙物理に憧れて、応用物理学科に進学しました。

とは言うものの、大学でもやはりスポーツに没頭することに……。理工ラグビー部に所属して、大学1～2年は、練習、試合、飲み会に明け暮れる日々でした。ところが、2年生の9月に東大戦でタックルをして頸椎<sup>けいつい</sup>を骨折してしまったのです。第一頸椎の骨折だったのですが、第二頸椎より下だったら、半身不随になっているところでした。

入院生活は3カ月に及び、大学2年生の後期を棒に振るこ



リビング空間を模した実験室には、人の動きや形状を取得する画像センサーが設置され、リアルな環境下での行動認識の研究に役立てられている。



とになってしまいました。そんな状況のなか、友人たちがノートを貸してくれたので、なんとか年明けのテストもクリアして、留年せずにすみました。

ちなみに、ラグビーは一度諦めたのですが、結局、3年生の途中から復帰して、4年生の最終戦では、ここ慶應の矢上グラウンドでロスタイムの逆転トライで慶應理工に勝利しました。いい思い出です。

#### — どういうきっかけで画像の研究に進まれたのですか？

ラグビーでの大けがもあって、理論物理系の科目を理解するのが難しいと感じていた大学3年生のときに、後に指導教員となる橋本周司先生の「計測原論」という講義を受けて、計測の奥深さを感じ、興味が一気に理学から工学へと移っていったのです。一方で、橋本先生の研究室はたいへん人気が高かったため、もし院試（大学院の入試）に落ちたら就職してもいいかなというくらいの軽い気持ちでもいました。

結局、無事に院試に通り、大学院では顔画像認識・合成に関する研究に取り組みました。たとえば、受け口の歯科矯正の手術前と後の顔の見え方の変化や歯の噛み合わせを画像でシミュレーションして示すといった研究です。

この成果を日本顔学会で発表したところ、九州大学の歯学部の教授に興味をもっていただき、共同研究が始まりました。早くからこうした共同研究や画像グループの学生の指導ができたことは、いい経験になりました。

その後、早稲田大学で博士を取得して助手まで務め、2002年に結婚とほぼ同時に芝浦工大情報工学科に専任講師として赴任しました。芝浦工大では、初年度から10名の学生を指導し、在籍した2007年度までの6年間に約80名の学生を指導しました。

実社会とのつながりを  
常に意識して物事に取り組んで欲しい。  
そうすることで、  
自分の仕事の価値や意義を  
深く考えることができます。

## 青木義満

Yoshimitsu Aoki

群馬県高崎市生まれ。1996年早稲田大学理工学部応用物理学卒業、2001年早稲田大学大学院博士課程理工学研究科物理学及応用物理学専攻修了。博士（工学）。早稲田大学理工学部助手、芝浦工業大学工学部情報工学科助教授を経て、2008年より慶應義塾大学理工学部電子工学科准教授。2013年より株式会社イデアクエストの取締役を兼任し、慶應理工発画像センシング技術の医療分野での実用化を目指している。専門分野は知覚情報処理・知能ロボティクス、メディア情報学・データベース、計測工学、医用システムなど。

#### — 2008年度から慶應義塾大学にいらしたわけですが、いかがですか？

慶應のほうが、良くも悪くもきちんとしている印象があります。後輩を大事にするところはとてもいいですね。また制度も整っており、そうした制度を活用して、うちのドクターの学生5名中3名が海外留学を経験しています。

#### — ご多忙ですが、息抜きはどうされているのですか？

小学校4年生の息子と年中の娘がともに柔道をやっていて、子どもたちにまざって、週に一度、私も柔道をしてストレスを発散しています。ちなみに、子どもの柔道の試合はすべてビデオで撮影して、映像編集、戦術解析をしているんですよ（笑）。いずれ、柔道をしているときに身体の重心がどこにあるか、画像で自動的に解析するような研究もやってみたいと思っていますところですよ。

#### ◎ちょっと一言◎

##### 学生さんから：

● 熱血漢で厳しい一面もありますが、つねに学生のことを真摯に考えてくれる素晴らしい先生です。とくに僕たちが研究しやすいように、これ以上ない環境を整えてくださっています。先生自身もラグビーをされていたが、『スクール☆ウォーズ』の滝沢先生そのものです（笑）。研究の楽しさ、厳しさ、さまざまなことを青木先生から学んでいます。

（取材・構成 田井中麻都佳）

さらに詳しい内容は .....  
<http://www.st.keio.ac.jp/kyurizukai>

